

平成31年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和2年4月30日現在

| | | |
|-------|---------------------------|---------------------|
| 研究課題名 | ロシア語における品詞分類の変遷：数詞と名詞の関係性 | |
| 申請者 | 氏名 | 所属機関・職 |
| | 鈴木 理奈 | 札幌医科大学・北海学園大学 非常勤講師 |

研究成果の概要

ロシア語の品詞分類は時代と共に大きな変遷を遂げている。現代ロシア語において品詞は、「名詞」、「形容詞」、「数詞」、「代名詞」、「動詞」、「副詞」、「前置詞」、「接続詞」、「助詞」、「感嘆詞」に分類されているが、M.V. Ломоносов 著「Российская грамматика」(1755年)では、ロシア語の品詞は「名詞」、「代名詞」、「動詞」、「形動詞」、「副詞」、「前置詞」、「接続詞」、「感嘆詞」とされており、「Русская грамматика」(1980年)では「形容詞」、「数詞」、「助詞」が加えられ、「形動詞」は動詞の一部となった。

ロシア語の品詞分類において、数詞は名詞に位置付けられていたこともあるように、個数詞の性質は名詞と似通っているところがある。また個数詞以外の、順序数詞、集合数詞、分数詞、不定数詞などは、形容詞や副詞的な性質も見られる。このように数詞は、名詞、形容詞、副詞など他の品詞との共通領域を持ち、絶対的な境界線を引くことは難しいと言えるだろう。

本研究にあたり数詞の品詞分類の歴史の変遷について古文献を調べていくうちに、数詞はその性質ゆえ名詞以外にも他品詞との関連性により様々な分類がなされながら、確立していったことが分かった。今年度の研究では、数詞と名詞の関わりに注目し考察を行ってきたが、これにより、さらに幅を広げて他品詞との関係も注意深く見ていく必要性が生じることとなった。

今後の研究では、数詞の品詞分類化に至る過程における、数詞と他品詞との関連性および共通の性質を明確にしていきたいと考える。同時に、研究の成果をまとめて学術論文集に投稿すべく目下執筆を進めているところである。

共同利用型研究に際し、北大およびスラブ・ユーラシア研究センター所蔵の露文図書の活用や、共同研究室の利用をさせていただいた事に深く感謝申し上げたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

ロシアの学術論文集投稿に向けて執筆中

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。